

東久留米の野草(9月～11月に観察した植物:開花・結実・紅葉)No.1



フサシダ科カニクサ



タデ科サクラタデ



タデ科ママコノシリヌグイ



タデ科イシミカワ



シソ科ナギナタコウジュ



シソ科イヌトウバナ



アカバナ科チョウジタデ



アカバナ科アメリカミズキンバイ



ヒガンバナ科ヒガンバナ

※カニクサ: シダ植物の中では珍しい蔓性。植物・樹木などに絡みつき2～3mほどにもなる。

※サクラタデ[絶滅危惧Ⅱ類]: 市内での生育数は少なくサクラに似た淡紅色の花を咲かせる。

※ママコノシリヌグイ/イシミカワ: 両者は三角形の葉形で茎に鋭い逆さ刺があり類似。相対しているのは前者がピンク色の花に対して後者は緑白色。

※ナギナタコウジュ: 雑木林や道端などが生育地とされているが、市内では観察が難しくなった絶滅が危惧される種の一つ。

※イヌトウバナ: ナギナタコウジュと同様に市内絶滅危惧種の一つ。

※チョウジタデ: 一年草。川沿いや調整池などの湿潤な場所に生育しているが過度な草刈などで数は多くない。

※アメリカミズキンバイ(別名ヒレタゴボウ): アメリカ大陸原産の帰化植物で1年草。チョウジタデと同様な生育場所で観察可。

※ヒガンバナ: 中国大陸原産の帰化植物。増加傾向にあり市内各所で観察可。

東久留米の野草(9月～11月に観察した植物:開花・結実・紅葉)No.2



※ショウキズイセン: 自生地は東南アジアや九州、南西諸島など。市内の生育数は少ないが移入ルート不明の国内外来種。※アシタバ: 9月12日開花確認。数は多くはないが何らかの理由で逸出している。※タコノアシ[純絶滅危惧]: 個人的な記録では落合川の河川改修後から生育を確認。

※アオツツラフジ: 雌雄異株。結実するとブドウのような実を付ける。おいしそうに感じるが毒素を含んでいると言われている。

※カナムグラ: 雌雄異株。雄花は黄緑色で細長い花茎から分岐した茎に疎らにつける。雌花は苞(葉の変形)に包まれた花の集まりを下向きに付ける。カラハナソウの雌花と酷似している。詳しくはネット・図鑑など参照。

※カラハナソウ: 雌雄異株の山野に生える多年草。市内では雌株の生育を確認している。公園新設の際、植えられた植栽と一緒に持ち込まれた模様。

※シロザ: 且つては生長すると木質化して丈夫な事から杖の代用品として使われた。同属のアカザは数年来未確認。

東久留米の野草(9月～11月に観察した植物:開花・結実・紅葉)No.3



マメ科クズ



マメ科コマツナギ



マメ科ナンテンハギ



マメ科ヤブマメ



マメ科ツルマメノ果実



イラクサ科ヤブマオ



イラクサ科カラムシ

※クズ: 放っておくと緑地全体を覆い尽くす厄介な植物。海外にも逸出しており、世界の侵略的外来種ワースト100選定種の一つ。

※コマツナギ: 9月5日開花確認。市内での生育数は少ない。※ナンテンハギ: 市内での生育数は極端に少なく市内絶滅危惧種。

※ヤブマメ: 蔓性の一年草。市内ではクズなどと同様に生育数は多い。

※ツルマメ: 蔓性の一年草でダイズの原種と言われている。同種のヤブマメと比較すると観察場所が極端に少ない。

※ヤブマオ: 市内各所で観察可。同じ仲間にメヤブマオがある。

※カラムシ: 古くから繊維質を採るために栽培されたとある事から多く観察できる。葉の裏が綿毛があり白く、仲間に綿毛がなく緑の物はアオカラムシと言われている。

東久留米の野草(9月～11月に観察した植物:開花・結実・紅葉)No.4



※マルバルコウ: 北アメリカ原産の1年草。市内各地で観察。アメリカタカサブロウ: 道端や湿地、荒地などの場所で普通に観察。

※ホソバヒメミソハギ: 北アメリカ原産の1年草。関東以西の地域で生育確認。※ミソハギ: 名前が示す様に溝を隠すほど茂る事から名付けたとされ、湿潤な場所でのみ独特な花を一面に咲かせる。※アレチウリ: 日本の侵略的外来種ワースト100選定種の一つ。川沿いや緑地内でも繁茂状態。

※カラスウリ: 花は、日暮れ頃から開花を始め朝方には萎んでしまう。蕾が開き3から5列に裂け縁先の糸状の物がレースのように広がる。そして独特の香りを漂わす。※スズメウリ: 蔓性植物で1年草。小型で目立たず観察が難しくなっている野草の一つ。

東久留米の野草(9月～11月に観察した植物:開花・結実・紅葉)No.5



ナス科ヒヨドリジョウゴ果実



ナス科イヌホオズキ



コミカンソウ科ヒメミカンソウ果実



キンポウゲ科センニンソウ果実



キンポウゲ科イヌショウマ



ラン科マヤラン



ユリ科ヤマジノホトギス



ユリ科ヤマホトギス



ツリフネソウ科ツリフネソウ

※ヒヨドリジョウゴ: 真っ赤に熟した果実は正にプチトマトだが、有毒な成分を持つ蔓性植物。※イヌホオズキ: アメリカイヌホオズキやテリミノイヌホオズキなどの外来種に押されて減少傾向。※ヒメミカンソウ: 葉の付け根部で開花して名の通り小さなミカン状の果実を实らせる。※センニンソウ: 開花は例年9月頃。写真は開花後の果実の様子。今年は11月半ば以降も開花している個体を複数観察している。※イヌショウマ: 市内では生育箇所が極端に少なく絶滅の危機に瀕している。環境省および東京都のレッドリストには掲載されていない。※マヤラン: 環境省で絶滅危惧Ⅱ類指定。過去に別の緑地で観察記録があったが、昨年偶然観察してから2年連続同じ場所で観察。※ヤマジノホトギス: 北多摩地区では準絶滅危惧種に指定。複数力所で観察できるが減少傾向。※ヤマホトギス: 特に指定はないが市内では減少傾向。同種は花被片が反り返るがヤマジノホトギスは平に開くが反らない。※ツリフネソウ: 北多摩地区では減少傾向にあり準絶滅危惧種。市内では1か所のみ生育箇所があるが踏圧被害などに合い絶滅を危惧。

東久留米の野草(9月～11月に観察した植物:開花・結実・紅葉)No.6



※オオオナモミ: 9月15日撮影。※マルバフジバカマ: 帰化植物で森林域にも入り込むので要注意。※トネアザミ: 同属のノハラアザミとの違いは総苞片が大きく反り返る点。生育地は2カ所確認されているが年々減少傾向。※ベニバナボロギク: 戦後の帰化植物。一時は市内各所で観察できたが減少傾向。※ヤクシソウ: 二年草。市内では観察が難しくなった野草の一つ。生育環境が良くなると一面に繁茂する事がある。※フジバカマ: 起源は不明。毎年水辺で花を咲かせている。※アキノキリンソウ: ヤクシソウやフジバカマ同様、観察が難しくなった野草の一つで絶滅の危機に瀕している。※キクタニギク: 現在、市内固有種と思われる個体が南沢水辺公園で大切に守られている。その他、偶然に落合川崖面の高所に生育している物を観察。

東久留米の野草(9月～11月に観察した植物:開花・結実・紅葉)No.7



※ノコンギク／ヤマシロギク: 山野に自生するキクの仲間。個体数は少なくなっているが日当たりの良い場所で観察できる。※リンドウ: 市内の雑木林での開花確認二株のみで絶滅が危惧される状況。※ビナンカズラ: 中央部に黄緑色した果実が見えるが熟すと右下のように真っ赤に変色する。※シオデ: 開花は6月上旬頃。緑色の実は熟すと黒色に変化。※サルトリイバラ: 開花は4月頃で果実は熟すと食用。蔓性植物で2から3m 程まで生長。※スイカズラ: 6月から7月頃、頭頂部に無数の小花を咲かせ結実して熟すとオレンジ色に変わる。※キチジョウソウ: 10月下旬開花。丈夫で日当たりの悪い場所でも見られる。※ノシラン: 分布は東海以西とあるが市内緑地にも散在する。※ヤブラン: おなじみの植物であり市内各所で観察。

東久留米の野草(9月～11月に観察した植物:開花・結実・紅葉)No.8



ツユクサ科ヤブミョウガ果実



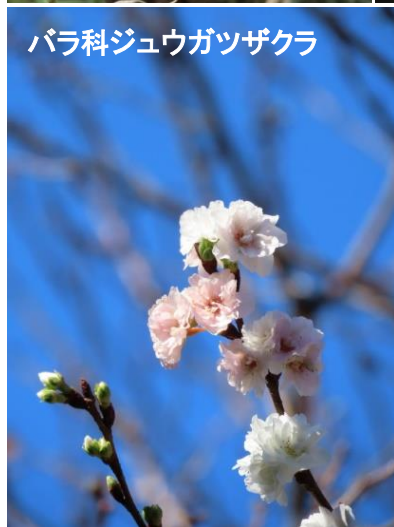
ナス科クコ



ミカン科カラタチ果実



モクセイ科キンモクセイ



バラ科ジュウガツザクラ



ウコギ科キツタ



グミ科ナワシログミ



メギ科ナンテン果実



バラ科ピラカンサ果実

※ヤブミョウガ: 市内の森の中で沢山の黒い実を付けた状態で観察できる。※クコ: 果実は食用。葉の脇に刺があり保全活動時の厄介な落葉低木。

※カラタチ: 市の銘木100選の樹木で黄色い実を付けていた。ミカン類の台木として使われる。※キンモクセイ: 開花は9月～10月。二度咲きする事が多い様で9月下旬頃と10月中旬頃にも開花。※ジュウガツザクラ: 85年頃本邑遺跡公園に植えられた。今年は10月下旬に写真撮影。所が、11月に訪れたところ樹勢の衰えにより伐採されていた。※キツタ: 蔓性の木の仲間。ウコギ科特有の放射状に多数の花を咲かせる。※ナワシログミ: 日本には15種類ほどある。このグミは10月頃に開花して翌年5月頃熟し食用になる。※ナンテン: 11月9日撮影。※ピラカンサ: 10月11日撮影。

東久留米の野草(9月～11月に観察した植物:開花・結実・紅葉)No.9



※ノイバラ: 開花時期は5月頃。結実した様子は10月27日撮影。

※ウド: 9月21日開花確認。ウドは山菜として食用になるが市内の自然地ではあまり観察できない。

※ヤツデ: 11月4日開花確認。ウドなどと同様に放射状の花を複数咲かせる。

※ヒイラギモクセイ: 11月2日開花確認。南沢緑地付近で観察したもの。ほのかな香りがあり見上げるとヒイラギモクセイの白い花が見にとまった。

※ソヨゴ: 11月10日南沢3丁目の畑で撮影。初めモチノキ科のクロガネモチと思っていたが実の付き方などが違い、調べると同属のソヨゴとの事。

※コウチワカエデ: 11月10日市内緑地で撮影。名称は不安だが…コウチワカエデとした。

※ムラサキシキブ: 11月12日市内緑地で撮影。この時季の多くの果実は赤色やオレンジ色などが多いが独特な紫色をしている。

※サワフタギ: 11月12日市内緑地で撮影。多くある果実の中では珍しい瑠璃色をしている。

東久留米の野草(9月～11月に観察した植物:開花・結実・紅葉まで)No.10



レンプクソウ科ガマズミ果実



サクラソウ科マンリョウ果実



サクラソウ科ヤブコウジ果実



クスノキ科シロダモ果実



ブドウ科エビヅル紅葉



ブドウ科ツタ紅葉



モクレン科コブシ紅葉と冬芽



ウルシ科ハゼノキ紅葉



カキノキ科カキノキ紅葉



ムクロジ科ムクロジ紅葉

※ガマズミ: 11月10日市内緑地で撮影。※マンリョウ: 11月17日市内緑地で撮影。※ヤブコウジ: 11月17日市内緑地で撮影。※シロダモ: 11月10日市内緑地で撮影。花期は10月～11月で丁度開花しており赤い実の脇に見える小さな黄色が花。赤く熟した実は昨年開花して実ったもの。※エビヅル: 11月13日市内緑地で撮影。※ツタ: 11月18日市内緑地で撮影。日当たりの良い場所では真っ赤に紅葉。※コブシ: 11月13日市内緑地で撮影。枝には黄色く色づいた葉が付いており、枝先の毛に覆われたものが冬芽。※ハゼノキ: 11月30日しんやま親水広場で撮影。※カキノキ: 11月17日小山れんげ公園で撮影。※ムクロジ: 11月17日小山子ノ神社で撮影。樹木の周辺部には熟して落ちたとムクロジの実が散乱していた。